

I . 業績概要

2018年度中間決算のポイント

預貸金

収益の基盤となる預金残高・貸出金残高は、ともに堅調に増加

・ 預金＋NCD残高	7兆8,598億円	(前年同期比	+1,969億円)
うち個人	4兆6,152億円	(前年同期比	+1,590億円)
・ 貸出金残高	5兆3,991億円	(前年同期比	+3,193億円)
うち中小企業等貸出	3兆5,690億円	(前年同期比	+1,476億円)

収益

連結の純利益は増益

		(前年同期比)
・ 親会社株主に帰属する中間純利益（連結）	120億円	(+7億円)
・ 中間純利益（単体）	111億円	(△3億円)

2. 2018年度中間決算概要

【単体】 (単位: 億円)

	17年度 中間	18年度 中間	前年同期比
業務粗利益	414	417	3
資金利益	353	368	15
役務取引等利益	43	46	3
その他業務利益	17	2	△15
うち国債等債券損益	17	△0	△17
経費	293	297	4
業務純益	121	119	△2
コア業務純益	103	120	17
臨時損益	13	35	22
不良債権処理額 (A)	0	0	0
貸倒引当金戻入益 (B)	2	0	△2
その他	11	35	24
うち株式等関係損益	2	27	25
経常利益	135	155	20
特別損益	22	△1	△23
中間純利益	114	111	△3
信用コスト (A) - (B)	△1	△0	1

【連結】

連結粗利益	439	442	3
連結経常利益	145	169	24
親会社株主に帰属する中間純利益	113	120	7

主な増益要因

- ・貸出金利息や有価証券利息
配当金等の資金利益の増加
(+15億円)
- ・株式等関係損益等の増加
(+25億円)

主な減益要因

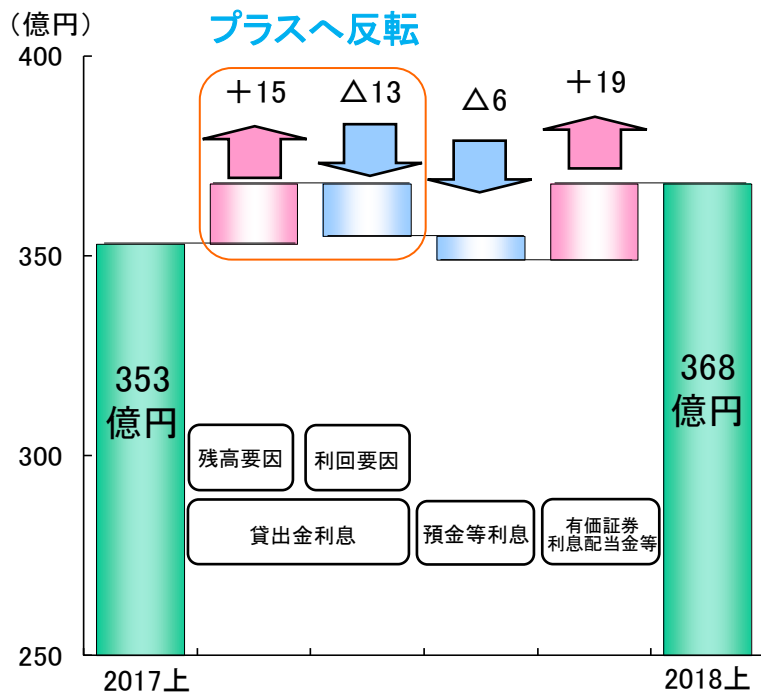
- ・国債等債券損益の減少
(△17億円)
- ・前年同期に計上した退職給付
制度改定益の剥落による特別
利益の減少
(△23億円)

連結

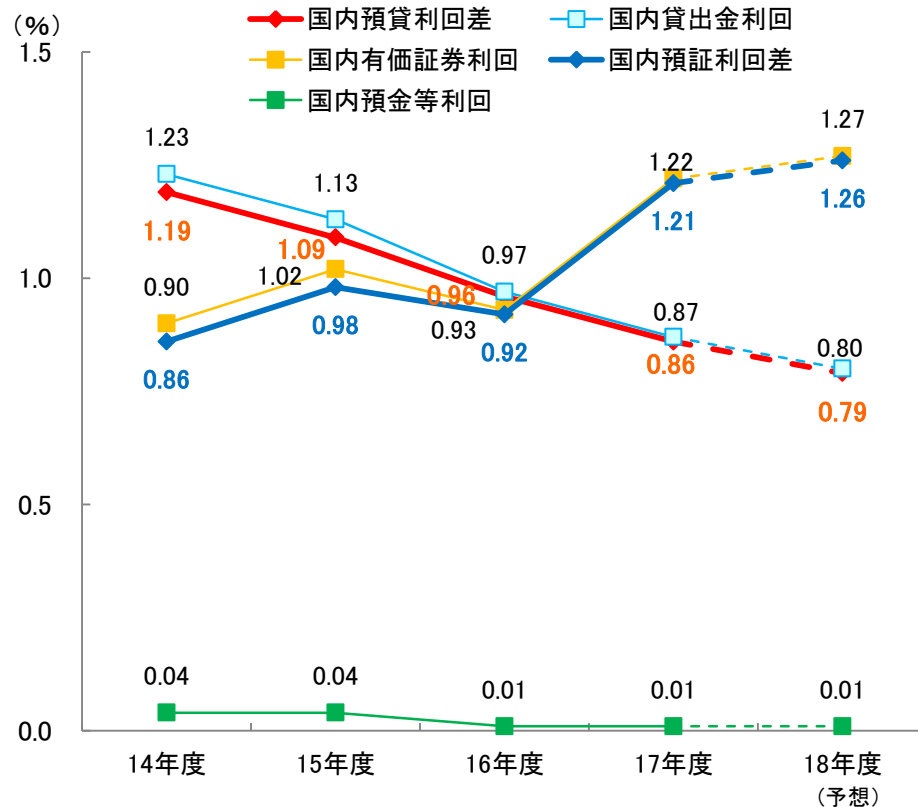
- ・連結の純利益は+7億円の
増益

3. 資金利益・利回

資金利益の増減要因
(2018年度上期実績)



利回の推移
(2018年度見込み)



<貸出利息増減額の推移>

(単位: 億円)

	16年上	17年上	18年上
増減額	△15	△6	2
残高要因	17	17	15
利回要因	△32	△23	△13

<国内有価証券利回の内訳>

(単位: %)

	17年度	18年度(予想)
国内有価証券利回	1.22	1.27
円債利回	0.47	0.43
株式利回	6.14	6.38

4. 2018年度決算見通し

【単体】

(単位: 億円)

	17年度	18年度 (予想)	前年度比
業務粗利益	791	813	22
資金利益	705	714	9
役務取引等利益	88	97	9
その他業務利益	△3	2	5
うち国債等債券損益	△5	△7	△2
経費	582	591	9
実質業務純益	208	222	14
一般貸倒引当金繰入額 (A)	—	△3	△3
業務純益	208	225	17
コア業務純益	214	229	15
臨時損益	34	35	1
不良債権処理額 (B)	1	8	7
貸倒引当金戻入益 (C)	5	—	△5
その他	30	44	14
うち株式等関係損益	20	38	18
経常利益	243	260	17
特別損益	13	△3	△16
当期純利益	183	185	2
信用コスト (A) + (B) - (C)	△3	5	8

業務粗利益

「銀・証・信」のワンストップ営業を確立し、貸出金利息や役務取引等利益の増加を図る。

当期純利益

前年度計上の特別利益の剥落はあるものの、前年度を上回る水準を見込む

連結

連結純利益は200億円と増益を見込む

【連結】

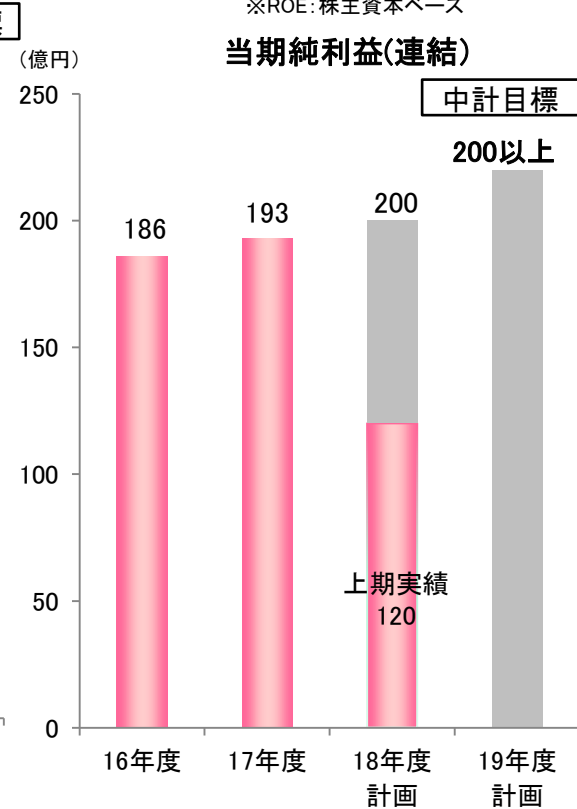
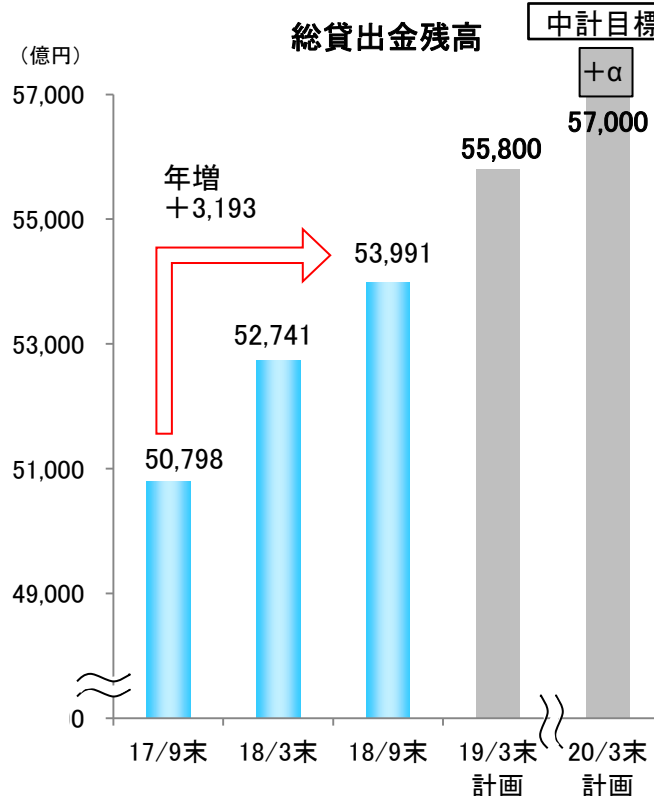
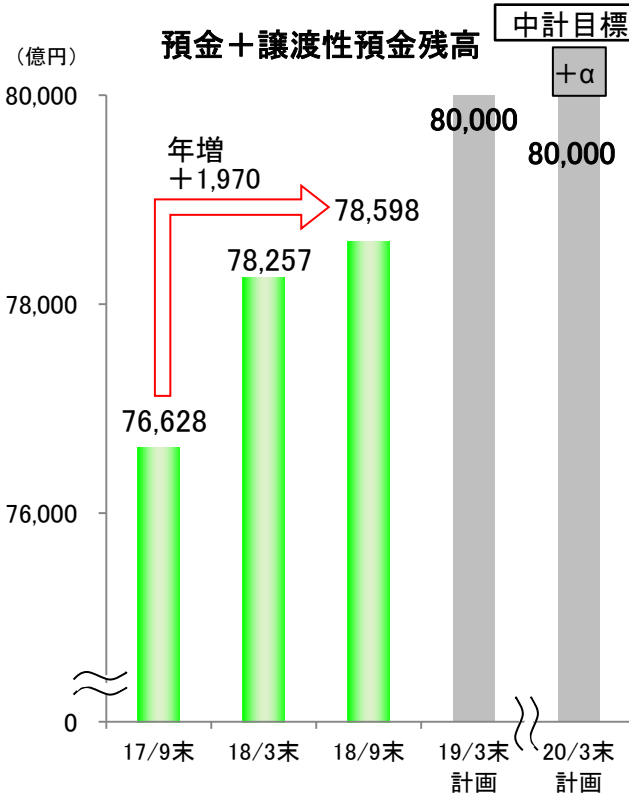
親会社株主に帰属する当期純利益	193	200	7
-----------------	-----	-----	---

5. 主要計数の状況

主要計数計画・実績

	2018年3月末実績	2018年9月末実績	2019年3月末計画	中計最終年度 2020年3月末計画
預金＋譲渡性預金残高	7兆8,257億円	7兆8,598億円	8兆円	8兆円＋α
総貸出金残高	5兆2,741億円	5兆3,991億円	5兆5,800億円	5兆7,000億円＋α
投資信託＋ 京銀証券預かり資産残高	2,347億円	2,587億円	3,200億円	5,000億円
当期純利益(連結)	193億円 (ROE 4.80%)	120億円 (ROE 5.76%)	200億円 (ROE 4.77%)	200億円以上 (ROE 5%程度)

※ROE:株主資本ベース



第6次中期経営計画「Timely & Speedy」(2017年4月～2020年3月)

主な成果

●顧客企業に対するコンサルティング機能の発揮

M&A支援先:11社、事業承継支援先:152先、
ビジネスマッチング商談設定件数:1,061件、海外事業サポート:1,368件

●預かり資産取引の裾野拡大

京銀証券口座開設:(2018.9末)15,577口座【目標比+1,695口座】

●信託業務への本体参入

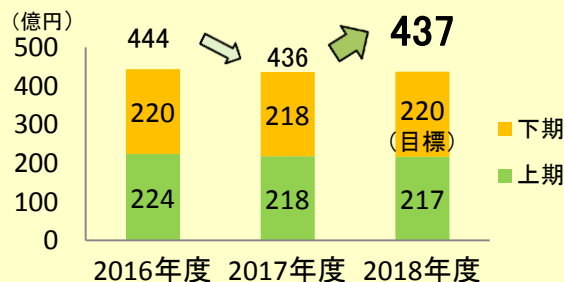
信託業務兼営認可の取得、信託コンサルティング室の設置、信託業務研修の実施等の体制整備

●生産性革新による営業店の事務削減

「融資集中室」設置、「電話受付センター」開設、
タブレット端末による「投資信託申込」・「住所変更手続き」受付の開始

主な課題

●貸出資金利益の反転・拡大



貸出資金利益=国内貸出資金利益+国際部門資金利益

●「銀・証・信」のワンストップ営業の確立

- ・当行全店舗で「銀行・証券・信託」の各サービスを一元的に提供
- ・京銀証券との連携および取り扱い商品の拡充
- ・信託業務を通じた富裕層との接点強化

●生産性革新のネクスト・フェーズ

- ・営業店事務の本部集中化促進
〔 試行から全店展開へ 〕
〔 対象業務の拡大 〕
- ・「アウトバウンド型店舗」への移行促進
(店舗ごとの役割明確化・分担)